



内科診断学 第3版

福井 次矢, 奈良 信雄 編

B5 頁 1066 2016 年

本体 9,500 円+税

[ISBN978-4-260-02064-0] 医学書院刊

評者 長谷川 仁志

秋田大大学院教授・医学教育学

日本で「医学教育の国際認証評価時代」の動きが本格的に始まってきている 2016 年 2 月に、待望の『内科診断学 第3版』が発刊された。8 年ぶりに大幅改訂された中身を見て、まさにこのテキストは医学科 1 年生からの臨床実習前教育から診療参加型臨床実習時、さらには生涯教育まで、すなわち初学者から指導医まで、症候・病態ベースで統合すべき日本の医学教育改革を実現化するバイブルと言えるテキストであり、内科系のみではなく、全国の全ての医学生、医学部教員、医育にかかわる機関の各科指導医の皆さんにお勧めしたい一冊であることを実感した。

その理由としては、1) 始めの「診断の考え方」(第 I 章)と「診察の進め方」(第 II 章)で医療面接における情報収集スキルの重要性和臨床推論のエッセンス(検査前確率、尤度比など)と信頼を確立するために必要なコミュニケーションスキルなどについて、カラー図表が駆使されて初学者でもわかりやすくまとめられていること、2) 続いての「症候・病態編」(第 III 章)で、発熱、全身倦怠感、めまい、頭痛、胸痛から精神領域の救急まで、何科の医師としても実践対応が可能になるよう修得すべき約 100 の必須症候・病態について、患者の訴え方、医療面接、身体診察、確定診断のポイントなど臨床各分野横断的な統合教育を展開するため

に適した内容で、幅広く網羅されていること、3) 購入者は、本文を収載した付録電子版も利用でき、いつでもどこでもネットを介して読むこともできるようになったことが挙げられる。特に、1) 2) については、医師の資質・人間力を養う「プロフェッショナリズム教育効果」も高く、この観点からも有用であることを強調しておきたい。

評者の大学では、2010 年頃から本テキスト(第 2 版)を入学直後の 1 年生全員が指定教科書として共同購入し、入学直後から通年で症候ベースの PBL/TBL 形式で基礎医学、臨床医学、臨床推論・医療面接コミュニケーション、医療行動科学、プロフェッショナル教育を統合させる講義を展開してきた。本テキストの活用により、入学直後からの医学に関する自己学習も容易に導入することができ、1 年生全員への臨床推論・医療面接 OSCE も年 4 回実施することが可能となった。今後の国際認証評価時代には、大学のみならず関連病院の各科指導医の皆さんにも普及し、日本社会のニーズに合った教育展開をめざしていきたいと考えている。ぜひ、全国の全ての医学生、医学教育にかかわる全ての機関の指導医の皆さんにお勧めしたいテキストである。